

## ユナンセン？

洪 聖 杓（高等部 最優秀賞）

「ユナンセン?」、みなさんはこの言葉をご存じですか。「ユナンセン」というのはヒップホップの音楽でよく使われています。これは自分が言ったことがちゃんと伝わっているかを確認する時に言います。相手に何かを言う時にきちんと伝わっているかを確認するのです。私はこの前、こういう経験をしました。

時は夏の補習。私は日本語の先生に呼ばれました。「なにか御用ですか。」と聞くと、先生は「今回大きな科学の行事があるんだけど、君にぴったりのボランティア活動があるのよ。」とおっしゃいました。それはなんと通訳でした。はじめは「ろくに日本人と話したこともないのに、うまくできるかな」とためらいましたが、滅多にないチャンスだと思い「はい、やってみます。」と答えました。

私が担当した任務は日本人の方がスピーチする実験の説明を通訳することでした。結構緊張していたのですが、やっているうちにどんどんコツが分かってきて、徐々にうまく出来るようになりました。またお客さんたちからも褒められ、すごく嬉しかったのです。でも時々、科学の先生が来て「この顕微鏡は普通の顕微鏡と何が違いますか。」など質問され、困ってしまったものです。

それからずっと説明ばかりするのも疲れてしまい、私と日本人の方は場内を見回ることになりました。その途中「小便の原理を説明する」というブースが目につきました。ブースの人たちに

も誘われましたし、日本人の方も興味を見せていたので説明を聞くことにしました。

ここで私は同時通訳の世界を少し味わって見たのです。まず電子辞典の使用を理解していただいた上で同時通訳を開始。これはスリル満点でした。それと「腎臓・膀胱・葡萄糖」など難しい言葉が出てきて本当にはらはらしました。後で知ったことですが、「輸尿管」を「水尿管」に、「細尿管」を「洗尿管」に誤訳したりもしたのです。でもこの経験は今回の活動の中でも一番印象的でした。

今まで私が習っていた日本語は限りなく紙の上の文字でした。また一方的に聞くだけの音だったのです。しかし今回の機会を通して「日本語は本当に言語なのだ！一方の世界だけで通じるものじゃない。僕が話しかけると答えをもらえるコトバなんだ。」と理解するようになりました。これからは自信を持って「ユナンセン?」と聞けます。

活動中にずっと着ていたスタッフ用のTシャツを眺めながら、自分が持っている能力で誰かを助けることができ、また日本語も生きているコミュニケーションの手段であることを振り返ってみました。これらの教訓は大切な人生の一步となったのです。

みなさん！最後に一つお聞きしたいと思えます。今、私がお話ししていることが全部通じていますか。

## 私のボランティア論一点数稼ぎの奉仕活動なんて…！

徐 庚 希（高等部 金賞）

こんにちは。金海外国語高等学校の徐庚希

です。いつもより暑い夏です。みなさん、いかが

お過ごしでしょうか。

例年、夏休みが始まると、病院や地下鉄、養老院などに、大勢の学生たちが詰めかけます。「奉仕活動の時間」というのを、履修するためです。本来、この時間は、学生に奉仕の精神を植えつけることを目的としています。しかし、ボランティアの現場では、ただ義務時間を費やすだけの例も、まま見られます。もちろん、少数の学生に限った話ですが、彼らにとって、ボランティアは、「参加した」という証拠こそが重要です。だから、自分が奉仕活動をしている姿を、わざわざ写真に撮ってくる学生なんかもあります。「奉仕活動の時間」は、名前ばかりの体験活動になってしまった気がします。

それでは、なぜ、韓国の学生は、ボランティア活動に必死になるのでしょうか？答は簡単です。韓国には、大学に入るための必修科目があって、それに「奉仕活動の点数」が反映されるからです。

実は、私も点数のために、いわゆる「奉仕活動」に参加したことがあります。友だちに「郵便局でのボランティアが楽なんだ」と聞いて、郵便局に行きました。でも、最初に言われたのは、「高校生は要りません」という厳しい一言でした。私はあせりました。どうしても、学校が要求する「奉仕活動の時間」が満たしたかったからです。何度もお願いしたすえに、なんとか郵便局のボランティアを許されましたが、その内容はお粗

末なものでした。郵便局長の部屋を掃除して、局の窓を吹く、という、たったの30分間で終わる作業でした。それでも、私のボランティア活動表には、「奉仕時間4時間」と記録が残りました。はたして、私がやったことは、「奉仕」と言えるのでしょうか。恥ずかしいことに、私の「奉仕活動」は、ただ点数をとるために、時間を埋めただけのものでした。

そして今、この時間にもボランティアをしている学生たちに、言っておきたいことがあります。どれだけ犠牲を払って、どれほど他人のためになったかを計算するのは、本当のボランティアではありません。報酬や成績を求めるばかりで、思いやりの心を持ちあわせない行動は、本当のボランティアとは言えません。ゆっくり歩いてくるおばあさんのために、エレベーターの「開く」のボタンを押し続けていた貴方、背が低くて手が届かないおちびちゃんのために、バスの降車ベルを押してあげた貴方、目の不自由な人のために、一緒に横断歩道を渡った貴方。自分でも気づかないうちに、人の役に立っているのです。相手の立場になって考えること、相手にとって、今、なにが必要であるかを察すること、そして、自然に手を差しのべること。それがボランティアだと思います。

いつでも、誰でも、どこでも、ボランティアはできるはずです。

## コミュニケーション恐怖症

李京珉（高等部 銀賞）

こんにちは。私は金海外国語高等学校の李京珉です。

人と人が出会うこと。人生にとって、これほど大切なことはありません。たとえ、それが悪縁だったとしても、その人と私はなんらかの形で

つながっていたのです。その関係を改善するか、ほうっておくかは、相手とのつき合い次第で変わってきます。そして、その「つき合い方」というのは、コミュニケーションのやり方に大きく左右されます。なぜなら人はコミュニケーション

を通じて、人と出会い、心を通わすことができるからです。

ところで、私はコミュニケーションに対して、少し恐れを感じています。幼い頃の私は、今と違って、ハキハキとものを言い、感情表現にも率直でした。堂々と自分の意見を述べ、他人の意見をもよく聞き、特に討論のあとに互いの心が通じあう瞬間が好きでした。しかし、成長していくにつれ、人と話をするのが楽しくなくなりました。今は、ただ形式的に、当たりさわりのない会話を交わすばかりです。

なぜ、こうなってしまったのか。よく考えてみると、原因は意外なところにありました。実は、私は話すスピードが、とても早いのです。もともとせっかちな性格で、人に私の思っていることを「いち早く伝えたい」、そして「たくさん伝えたい」と、つい焦りが出てしまい、自分自身でさえコントロールできないほどの早口になりがちです。結局、発音までも悪くなってしまい、当然周囲の評判も悪くなりました。「あんたの言うことが全々わかんない。もっと、ゆっくり話してくれない？」とか「一体、どこの国の言葉を発しているんだ!」という具合にです。この悪い癖を直すために、いろいろと努力しましたが、身につ

いてしまった習慣はなかなか直りませんでした。結局、わたしが猛烈なスピードで話しかけて、相手にはまったく聞き取れていない、という悪循環が続いていました。つまり、私は、コミュニケーションの基本、すなわち「対話」の部分で、失敗していたのです。

しかし、幸いにも、この絶望的な悪循環の終着点が見えてきました。今回のスピーチ大会への参加が、私にまたとないチャンスを与えてくれたのです。このために、毎日、毎日、スピードを意識して、話す練習をしました。日常会話においても、スピーチの練習同様、ゆっくり、はっきり、そして相手が聞き取れているかどうかを、配慮するようになりました。そうするうちに、失った自信と、しばらく感じていなかったコミュニケーションの楽しさを再び感じるようになりました。今、こうやって話している瞬間にも、うっかり以前の癖が出ないかと、緊張しています。

皆さん、いかがですか。私の話は、聞き取りやすいですか。早口になっていませんか。私の話したいことが、ちゃんと伝わっていますか。皆さんの拍手によって、私は欠点を克服できるかも知れません。ご清聴ありがとうございました。

## 20年後の私

李京玫（高等部 銅賞）

みなさん、こんにちは。話を始める前にひとつお聞きしたいことがあります。皆さんの将来の夢は何ですか。こんな質問をすると芸能人、会社員、医者など様々な答えが出てくると思います。ここで私の夢を紹介します。私の夢は良妻賢母です。少しおかしいですか。良妻賢母ってそれが夢か、野心がないなと思う方もいらっしゃると思います。私も以前はそう思っていました。

しかし一冊の本を読んで私の考えは変わりました。その本は「五体不満足」という本です。皆さんもこの本については聞かれたことがあると思います。この本の著者は誰よりも明るくて前向きな考えを持っている人です。この人は生まれながらにして手足がなく、車椅子なしには生活できなかったのです。それにもかかわらず、自分が障害者だと挫けたり、恥ずかしく思ったりしません。むしろ、自分は特別なんだと思い、

堂々と生きています。「五体は不満足だが、人生は大満足だ」彼が言ったこの言葉は感動的でした。

しかしこれよりもっと感動したのはこの主人公のお母さんのことです。手足がない赤ちゃんが生まれたとき、お母さんが言った言葉は今でも忘れることができません。手足が無い赤ちゃんを見て「あら、可愛い」と言ったのです。普通、自分の赤ちゃんが手足がないまま生まれたとしたら、どうでしょうか。ショックで声も出さず倒れるかもしれません。彼が誰にも無視されず、負けなかったのは、この母親の「自分の子供は誰にも劣っていない」という前向きな考え方が子供にも伝わり、いつもそばで力強く支えていたからではないでしょうか。そして私は彼のお母さんこそ真の母親で、将来、このような賢母になるというのも素敵な事だと思いました。

近頃の女性は自分の能力を社会で生かすためにがんばっています。もちろん、男性と肩を並べて力を発揮するキャリアは誰が見ても格

好いと思います。一方良妻賢母という役割は見た目はおもしろくなく、普通の専業主婦と何も変わりません。しかし、母親というものは自分の夢をあきらめて子供と夫だけのためにすべてを犠牲にするものではありません。良妻賢母も家族と一緒に夢を叶えていく生きがいのあるひとつの職業だと思います。五体不満足のお母さんも自分を犠牲にしたのではなく、子供と一緒に自分の夢を実現させたのではないのでしょうか。

私は今高校生で母親になるのはまだまだ先のことでしょう。でもいつか出会う将来の子供のために今しかできないいろいろなことをこれからどんどん経験していきたいです。強く大きな母になるために…

そして20年後、家族とお揃いの服とリュックを背負って旅行に行きたいです。広々とした景色を眺めながらわたしの子供にこう聞いてみたいです。「あなたの夢は何？」

## 認識の差を超えて

金 州 妊（高等部 優秀賞）

皆さん。こんな言葉をよく耳にしていますか。「お互いを理解し合おうと努力さえすれば解決できるはずです。」口では簡単に言えるかも知れませんが、でも本当に、本当にそうしているのでしょうか。お互いを理解し合おうと。

皆さん、こんにちは。私はトンドク女子高校3年生のキムジュイムと申します。今日皆さんにお話したいことは、今年、3月にあった韓国でのホームステイについてです。

今年、2月、私は日本で行われた青少年交流に参加しました。研修でのいろいろな日程の中には大阪でのホームステイもありました。その時、親しくなったホームステイ先での人と同じ

年の上村優ちゃん、そして彼女の親友の天野亮平君です。忙しい日程の中で与えられたたった三日という短い間、私たちは友達になりました。そして研修が終り、私は韓国に戻ってきました。瞬く間に3月になり、高校3年生の生活が始まったばかりのある日、私のところに優ちゃんからのメールが届きました。そこには亮平君と二人で韓国旅行をすることになったと書いてありました。そして数日後、彼女たちが韓国にきました。今回は彼女たちが私の家でホームステイをすることになりました。ソウルタワーをはじめ、民俗村やナンデムンなどに行きました。初めての韓国旅行はとても楽しい旅になっ

たそうです。

そして時間が経ち、韓国での最後の夜になりました。いつものようにまた話をする事になりました。今まで彼らが韓国で感じたことについて聞かせてもらうこともできました。その中で、歴史問題の話が出ました。最初は日本人は歴史問題についてどう思っているのか、ただそれが気になって聞いてみました。でも話しているうちにだんだん雰囲気が変わってきました。

“あのさ、韓国人と中国人は日本人に、やたらと騒ぎ立てているように思われているんだよ。”そういう彼らの話には私はかなりのショックを受けてしまいました。日本の教科書や日本の領土についてどうして他国である韓国や中国が文句をつけたり騒ぎ立てたりしているのか分からない、と思っている日本人もけっこういる、とのことでした。

認識の差。それはただの文化の差ではありません

せん。それは今まで受けた教育の差でもあり、また、それに基づいた歴史認識の差でもあると思います。

私はそれで思ったのです。日韓関係は今までは前へ進められない。だから私が両国間の掛け橋になって少しでも役に立ちたいと思いました。その掛け橋役になるには、もちろんさまざまな分野や道があると思いますが、今はとりあえず青少年交流関係に取り組みたいと思っています。なぜならば、研修に参加できてこそ今の私がいると思うからです。それで私は大学生になったら外交や国際交流について専門的に勉強するつもりです。そうすればいつかは「お互いを理解し合おう」という言葉が口だけのフレーズではなく、実際、行動が伴われることになるでしょう。

皆さん、将来皆さんのお子様を私の交流プログラムに参加させてみてはいかがでしょうか。

## 巨像の悲鳴

尹 ダ エ (高等部 優秀賞)

眩しく輝く剣を片手に持ち、巨大な巨像に向けて走っている少年が見えます。少年は巨像の上に必死で這い上がり、青く光ってる紋章、つまり巨像の弱点に自分の剣を突き刺します。やがて倒れた巨像の崩れ落ちる姿をみながら、少年は黒い線に包まれ意識をなくします。

私が最近ハマってる「ワンダと巨像」というゲームで主人公が巨像と戦ってる場面を描写してみました。まだ幼い少年、ワンダは一人の少女をよみがえらせるために、古代の神殿に訪ねてきます。その時、天からきこえた不思議な声はドルミンだと名乗り、「少女を助けたければこの地に棲む巨像たちをすべて倒して来い」とワンダに命じます。橋を渡り、川を泳ぎ、林を横切ってたどり着いたそこで待っている巨像との

戦いはまるで聖書に出てくるダビデと、本物を数倍は増幅したようなゴリアスを見るようでした。悪戦苦闘の果てにやっと巨像の弱点まで這い上り、そこに剣を突き刺す時の快感は比べ物になりません。

しかし喜びの後、巨像が倒れる時いつも叫び出す生々しい悲鳴はなんとなく私を悲しみに浸らせました。彼らはすべて乗り越えていくべきである障害物なのに、本当に殺さなければいけないのか、という疑問がわいてきます。皆さんは、なぜ私がこう感じたと思われませんか。

答えはこのゲームの終りにありました。なんと、巨像たちはその怪しい声、邪悪なドルミンの封印の守護者たちであり、ワンダはただドルミンに利用されただけだったのです。ドルミンは

結局復活しますが、その後はのちほどお話ししましょう。

それより私は巨像たちに焦点を合わせたいと思います。大地のように重く、山のように威圧的な巨像たちを前にして思い浮かんだのは、「自然」でした。「便利な生活」、「金銭的な利益」という名のドルミンに促され、人々はワンダのようにずっと保ってきた自然に対する尊敬と恐怖を意識的に押し殺し、自然に向かって挑むのです。私たちが汚さなければきれいなままであるはずの自然は、どんどん汚れて私たちにその被害が跳ね返ってきます。私たちが不必要に発している熱は地球温暖化を生みます。

私たちが流した工場の廃水は私たちが飲む水に入っています。こんな事をしでかして苦しむのは結局私たちだという事実に、どうして大勢の人々がまだ気づいてないのでしょうか。

ゲームの最後は、ドルミンが消滅し、少女も復活してかわいい赤ちゃんに生まれ変わったワンダと一緒に豊かな自然で暮していくというハッピーエンドです。私たちも赤ちゃんのワンダのような純粋な心で自分たちを暖かく包んでいるこの自然を、一度振り返ってみましょう。きっと、これまでとは違う世界が目の前に広がっていくはずですよ。

## 星が導いてくれた夢

朴 恩 姫（高等部 優秀賞）

皆さんは北極星がどこにあるか知っていますか。

現代の人が星に頼って道を探すのはごく稀なことなので、敢えて北極星の位置を知っておく必要はありません。しかし、百年ぐらいの前は北極星がどの辺にあるのか、知らない人はいなかったと思います。闇の中で、彼らが頼れるものは星しかなかったからです。様々な科学技術に恵まれている私たちにはもう北極星の位置は必要じゃないかも知れません。しかし科学技術も人生の中で迷ったときには、何の役にも立たないでしょう。

私の北極星は小さなことから始まりました。幼い頃深い森のキャンプ場でみんなで夜空を見上げたことがあります。あの時の空は今も忘れられないほど美しかったです。想像できますか。闇の中でキラキラと輝く星の群れ、流れ星もありました。その場でみんなと一緒に自分の夢を叫んだことを思い出します。だれにもありそうな話ですけども、私にそれは掛け替えの

ない大切な思い出になりました。そうして、空を見上げる度、そのことを思い出し、自分の夢を改めて思う機会にします。辛い時や迷った時、それは私を導いてくれる北極星となりました。

皆さんはよく夜空を見上げますか。何が見えますか。悲しいことにソウルの空には道を照らしてくれる星は見つかりません。そんな空を見ると、思い出すことがもうひとつあります。それは、私の友だちの多くは夢がないということです。その減ってきた星の数だけ、私たちの夢も減ってしまった気がします。今もその事実にもどかしさを抑えることができない。現代の私たちにも夢へと導いてくれる北極星は必要です。

皆さんには叶えたい夢がありますか。人生の悲劇は夢を叶えなかったことではなく夢を持てなかったことだと言われています。私は自分の夢があったため日本語に接することができました。そして今は通訳者を目指しています。それはとても幸せなことです。この夢を持っていないかったら、私の人生は今とはずいぶん違うと思

います。我々は夢から人生を生きる方向を教  
てもらっています。ですから、夢を持つのは何

より大事なことはありませんでしょうか。

## 55年前の私からの贈り物

金 頌 昨（中等部 金賞）

今は2061年、儂も最早70才。人生を振り返  
ても見る歳なんじゃ。まあ、そう言っても昨日の事  
も覚えられんけどのお。する事もおらんし、会う  
人もおらん。詰まらなくて詰まらなくて。テレビで  
も見ようかのー。

こんな老人らしい詰まらない日常。だが、あ  
る日、「ピンポンー」と鳴るベルの音とともに  
やって来た物。55年前の私からの贈り物。ハコ  
を開けて見るとそれはタイムマシンじゃった。  
変なボタンを押したら目の前が白くなる。そし  
て意識が遠くなる。

……目覚めたら何か変な所に来ちまった  
らしい。あ、こんな時、映画でよく言うあれ。なん  
だっけ、あそくだ！「ここはどこ？私はだれ？」

そうそうこれ一度したかった、って言うか今は  
そう言うところじゃないだろー！因みにそれは  
記憶喪失だ。いったいどこなんだ、ここは？いつ  
の間にか私は15才に戻っていた。やっぱりそれ  
はタイムマシンだったのか。

私がある人だちの前で何か話しているのが  
見える。これってたぶん日本語のスピーチの時  
だ。そういえば私、そんな事もしたっけ。へえー。  
あの表情を見たら、思い出した。私、あの時すっ  
ごく緊張して何が何だか知らなかったなー。目  
をどこに置けばいいのか、手をどうすれば自然  
に見えるのか、声はこの方でいいのか、とか  
ね。だってこんなの初めてだったし、何を話した  
かは思い出さない。ただ感じだけぼつぼつと思

い出すだけ。すっごく緊張してて、逃げたいと  
か。いや、それはなかったな。昔の私ってそん  
な緊張した気分、わりに楽しめたし。結果はどう  
であれ、人の前で話すの好きだったから。まだ  
若いなー。それに日本語でぶつぶつと一人言  
言ってるのも大好きだったなー。まあそれは未  
だにも大好きだけど。

けっこう面白い。タイムスリップか。詰まらな  
かったのにちょうどよかった。ふっと気がついて  
前を見ると私がいる。そろそろスピーチのけり  
が付くのか。

すごく変な気分だ。私は今、ここにいる。私が  
今、あそこにいる。こうしていると、私が70才だ  
なんか嘘のように思われる。手にあるこのタイ  
ムマシンが「君は70才の老人だよ」って言っ  
てくれるけど。

さてと、もう終わった見たいだし、こっちの私  
も詰まらない日常をすこし面白く作ってくれたこ  
の旅にけりを付けないと。あっ、その前に、この  
タイムマシンは15才の私が送ったものだ。15  
才の私が55年後の70才の私に。またあっちの  
私が歳を取って詰まらない毎日を過ごしている  
時、この楽しみを味わうためにはこれが必要だ  
ろう。じゃあ、送ってあげようか。宅急便とか何  
かで。そして、もう一度の人生か。

55年前の私からの贈り物。懐かしい空気が  
漂っている。

## 韓国と日本のもっと積極的な交流を望む

全 健 厚 (中等部 銀賞)

こんにちは。私は中平中学校の3年生に在学中の全健厚と申します。この栄え栄えしい席に上って来るようになるとは自分でも予想することができなかつたです。そしてこの席に上って来るようにして下さった皆さんに感謝いたします。

私は東北アジア、特に韓国と日本に対して私が把握している現在の情勢と私が予測する希望的な未来の姿に対して申し上げようと思います。それでは本題に入るようにします。

まず、現在の東北アジアの問題についてお話しします。このごろ北朝鮮の「デポドンミサイルの発射」と言う問題が東北アジアの安保に大きい脅威に近付いています。このミサイルが日本の隣近領海上に墜落してから、韓国と日本ではもっと危機感が高まっています。また北朝鮮は6者会談にずっと不参しながら東北アジアと世界の安保、政治権を脅威しようとする姿を見せています。このように外勢の脅威がますます加重される中に、私たちは韓国と日本、両国が一緒に未来のために努力しなければならないことをつくづく感じております。

確かに韓日両国の過去は暗かつたです。そしてこの暗い過去をそのまま無関心に経ったらいつかは私たちの皆が後悔するようになるでしょう。

私たちはこのような両国の暗い過去を通じて反省と理解でもっと良い両国関係を成すべきだ

と思います。暗かつた過去、取り上げることが敏感な‘靖国神社参拜’などの多くの問題は一方的ではなく、お互いの本気のこもる協議が成り立って必ず妥協点を捜さなければならないと思います。それで両国の昔の姿をきれいに解決して、馴れ馴れしい関係で新しい協力の道を捜さなければならないでしょう。

これからの韓・日間の友邦はもっと発展すると信じております。私たち二つの国家は未来のアジアの主役です。お互いに協力して技術の支援、活発な学術交換を通じて相互発展のための研究に頑張るべきです。これからはお互いに心を開いて心より両国関係に関心を傾けて協力しなければならないということを強く感じなければならないからです。

今まで私の充分でない主張を聞いて下さった皆さんに感謝いたします。まだ多くの大衆が過去の画一的な部分だけ持ってお互いに対する深い理解ができなくて感情のもつればかりしている状況ですが、また、20世紀の初期の敏感な問題からさらに‘独島の領有権紛争’などの問題で韓・日両国のしこりが完全には解けない状態でありませんが、これを乗り越えてこれから韓国と日本、両国の間にもっと活発な交流でもっと良い関係になれるように願いながら私の発表を終えます。

どうもありがとうございます。

## 言葉に潜められた力

盧 ナ ウン (中等部 銅賞)

皆さんこんにちは。私はノ・ナウンと申します。言葉のない世界、皆さんは想像できますか？

私たちは朝起きてから夜床に着くまで、人との会話や町の看板、テレビ、インターネットなど、



色々なものから様々な形をした言葉と接しています。つまり、私たちの生活と言葉は密接な関係だと言えるでしょう。

今日は、このような言葉に潜められている特別な力についてお話させていただきたいと思います。

言葉は人と人を繋げてくれます。人との付き合いで一番大切なことは何でしょうか？私は心を分かり合うこと、コミュニケーションだと思います。だとしたら、コミュニケーションができる一番簡単な媒体は何でしょうか？それは言葉だと思います。まず言葉が通じていなければ、お互いの心を理解したり、友情を深めることは非常に難しいことだと思います。

私には日本人のメル友がいます。私は彼たちとのメール交換で楽しい思いをしたり、日本の色々なことを教えてもらうことができました。もし私が日本語ができなかったとしたら、多分こんな素晴らしい友達に会うことはできなかったと思います。

言霊ということをご存知でしょうか？言葉にあると言われる霊的な力、それを言霊といいます。言霊は、良い言葉を口にする人には吉事を、不吉な言葉を口にする人には凶事を与えるそうです。

皆さんは、言霊のように、何かのことを話した時、それが本当になってビックリした経験がありませんか？私の周りには前向きな性格を持っていて、「私はできる」という言葉を口癖のように言っている人がいますが、そのおかげか彼女はどんなことでも上手に成し遂げて、彼女

が目指している目標にも順調に進んでいるようです。

朝、学校や会社であいさつをしてもらったことがありますか？「おはよう」、「元気？」のような優しい心が込められたあいさつをもらった日には、良い気分で一日を始めることができますと思います。また、私たちは辛い時や悲しいとき、回りから「頑張って」とか、「大丈夫だよ」という一言を聞いただけで、もう一度頑張れる勇気が沸いたり、悲しみが減ったような気がします。人の心を暖めて、勇気や希望をくれること。これが言葉が持っているもう一つの力です。

二つの花を同じ条件の中で一つは肯定的な言葉を、もう一つは否定的な言葉を聞かせながら育てると、肯定的な言葉を聞いた花より、否定的な言葉を聞いた花の方が早く萎んでしまうそうです。

また、日本の江本勝博士の著書「水は答えを知っている」によると、聞かせたことばが肯定的か否定的かによって、水の結晶はそれぞれ規則な形になったり、不規則な形になったそうです。これは、言葉がどれだけ強い影響力を持っているのかを断面的に見せてくれるのだと思います。言葉というのは二つ顔を持ったもので、誰かに愛を伝えることもできれば、また誰かを傷つけることもできると思います。言葉がどんな顔を出すのかは、言葉を使っている私たち次第ではないでしょうか。

ご清聴ありがとうございます。